

★ 婦人の自主的な活動で“よい生活を！” —このような例があります—

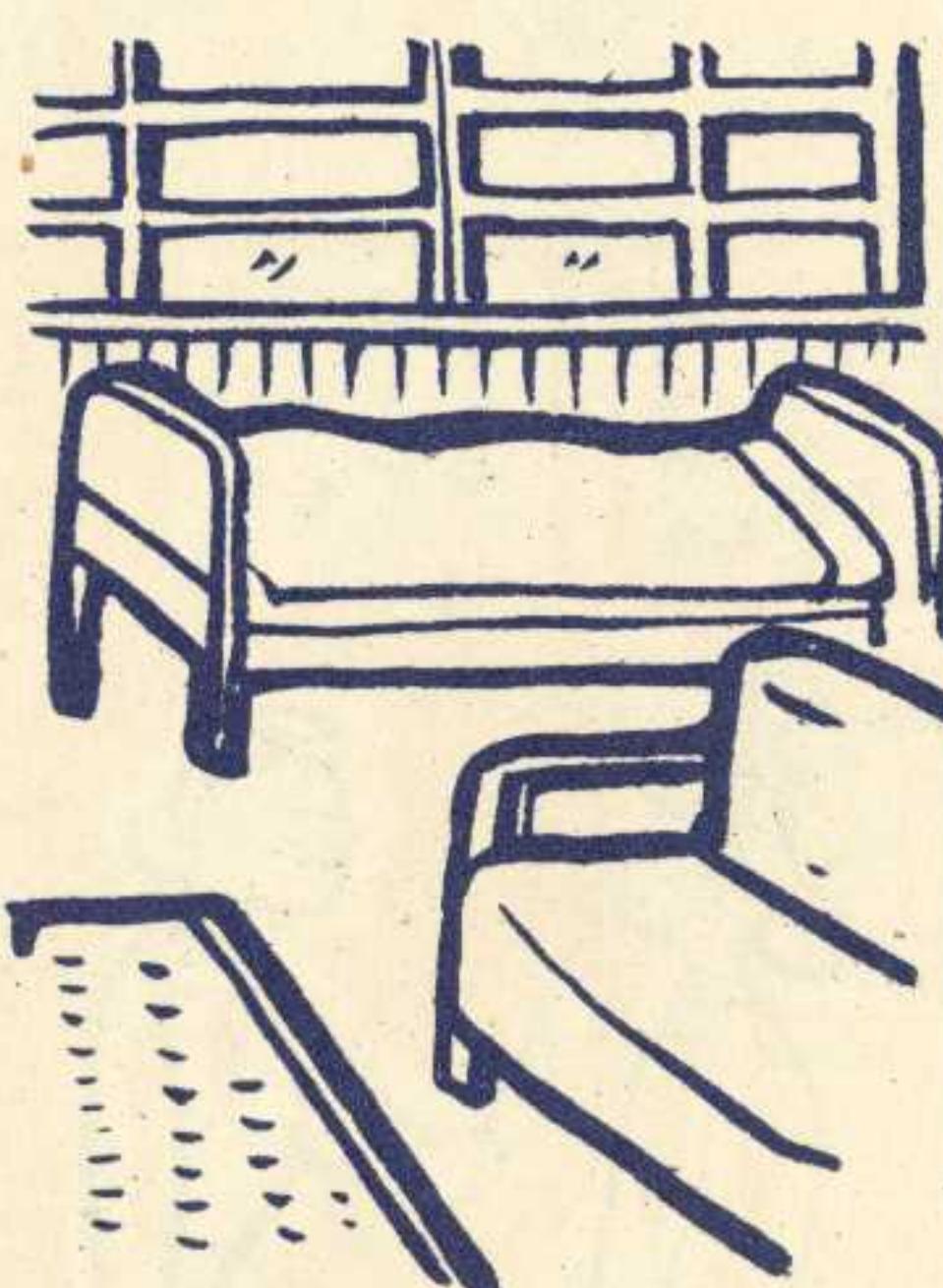
家庭

道具のおきかた
棚のつり場所を
工夫しただけ
劬きよく
なりました。
よていをたてて
計画的に仕事を
することによって
教養のじかんを
生みだしました。



職場

みんなの希望を
婦人部で話しあい
組合に提案して
会社側と
交渉した結果
休養室を
つくることに
なりました。



社会



社宅の主婦たちが 会社や町役場に劬きかけ
遊園地をつくりました 子供たちの世話を
出られる人が交代でしています。

婦人週間とは

日本の婦人が、はじめて国会の議員を選挙したのは、昭和21年4月10日です。その選挙を通じて、婦人も男子とともに政治に参加できることになりました。その4月10日から1週間を「婦人週間」として、婦人の地位をほんとうにたかめる運動を、労働省では、昭和24年から毎年行って来ました。今年はその第5回目でとくに“婦人の自主性の確立”を目標としています。

婦人少年局のしごと

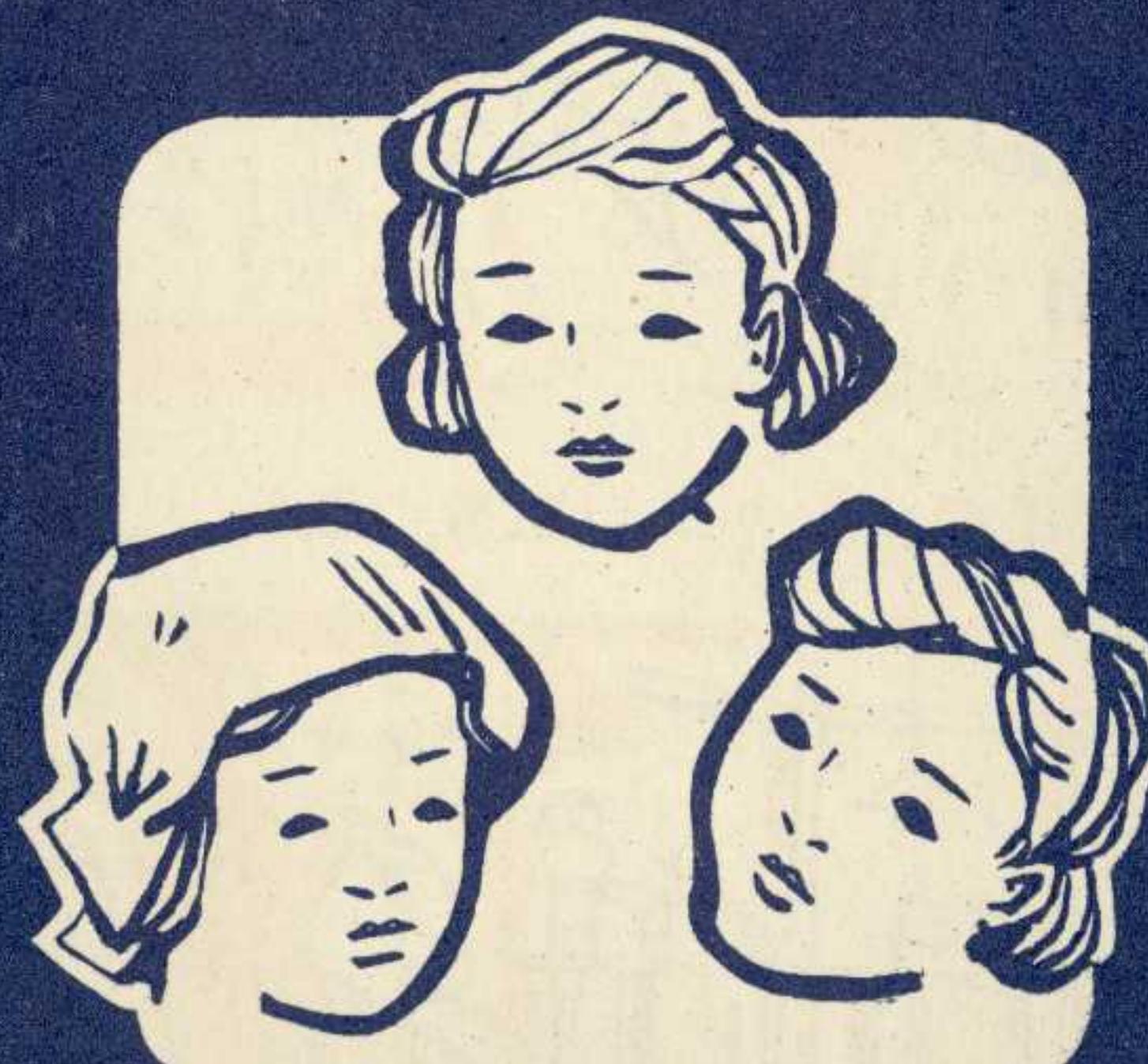
- 1.劬く婦人を保護し、その労働条件の向上をはかり、婦人の労働教育と、劬く機会の拡大のためにはたらく。
- 2.劬く少年少女を、不適当な労働からまもり、職業指導や余暇生活の指導を行って、身心ともにすこやかな産業人、社会人となるようにはかる。
- 3.国民の半数を占める婦人の地位の向上をはかり、また労働者家族問題をとりあつかう。

このリーフレットの増刷、転載を希望される向は労働省婦人少年局又は各都道府県の婦人少年室に御連絡下さい。

1953年3月 労働省婦人少年局

第五回

婦人週間



労働省婦人少年局
リーフレット No. 36

1953年3月 婦人週間 第五回

家庭、私場、社会でこんなことはありますか？

自分の意志でない結婚



工夫のたりない家事の運営



子供の独立心をそこなうような育て方



人権の自覚と尊重

公共の福祉に反しないかぎり すべての人に

- 身体の自由
 - 精神の自由
 - 行動の自由
 - 幸福をもとめる自由

が平等にあることを知り
自分の権利とともに 他人の権利もとうと

職場での無責任な態度



いたずらな流行の模倣



— もっと生活を自主的に —

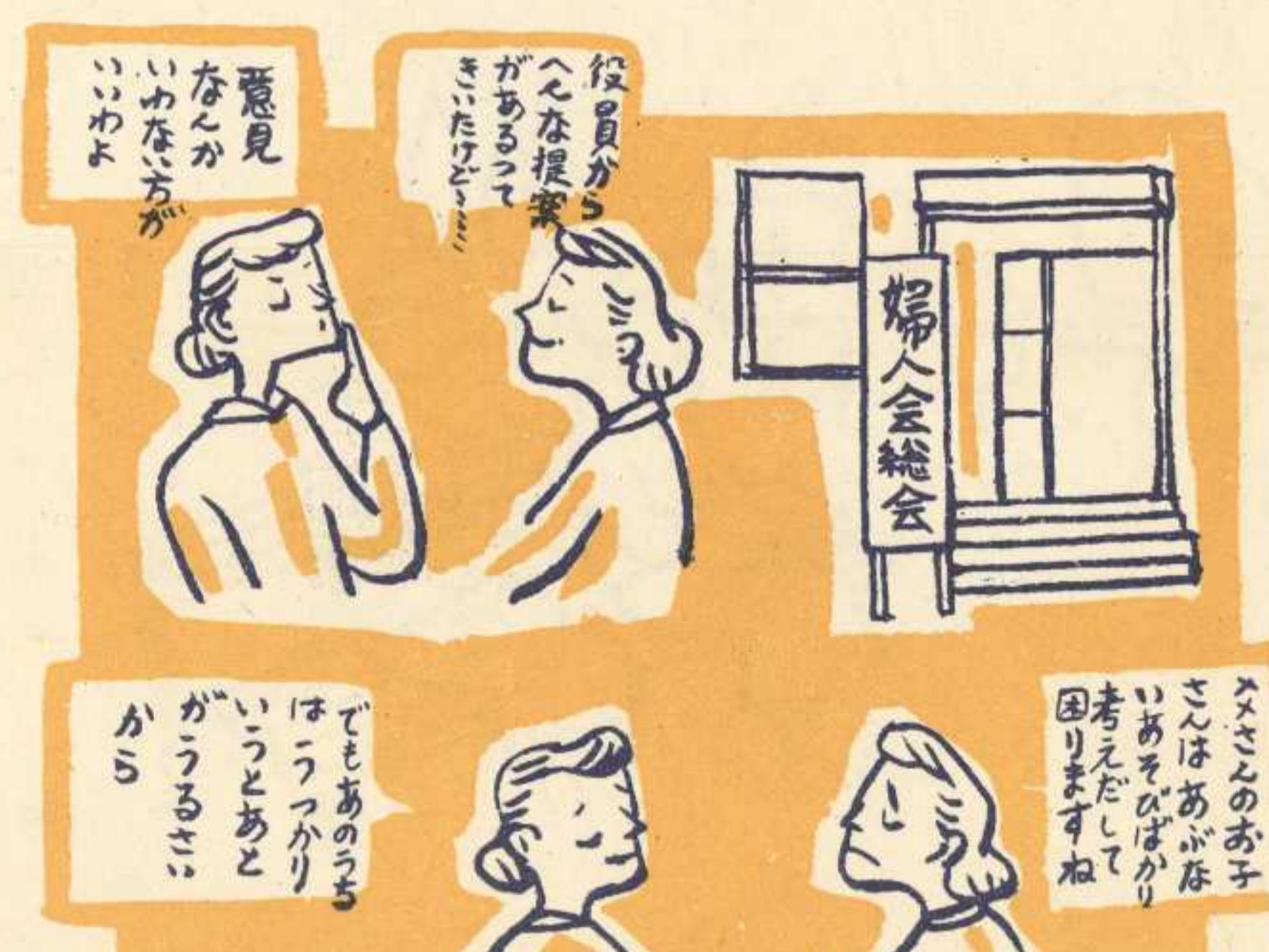
自分で考える

- 在来の考え方に入らわれない
 - 権力に盲従しない
 - 道理をとうとぶ
 - 正しいはんだん力をもつために知識をやしなう
 - 自分で納得のいくまで考える

他人にひきずられる



長いものに巻かれる



見て見ぬふり



政治に無関心



自分で行動する

- 附和雷同しない
 - 自分のことは自分で処理する
 - 人にめいわくをかけない
 - 社会的な訓練を身につける
 - 人にたよらなくてすむように技能をみがく
 - よいことは自分からすすんでする